






2億5800万人 深刻な飢餓

急性飢餓人口の多い上位5カ国

※国連食糧農業機関などによる

1	 コンゴ(旧ザイール) 2640万人
2	 エチオピア 2660万人
3	 アフガニスタン 1990万人
4	 サウジアラビア 1950万人
5	 イエメン 1780万人

【ジュネーブ＝共同】国連食糧農業機関(FAO)と世界食糧計画(WFP)などは三日、紛争や自然災害で深刻な食料不足に陥った人々の数を示す「急性飢餓人口」が調査対象となった五十八カ国・地域で二〇二三年に二億五千八百万人に上ったと発表した。ロシアのウクライナ侵攻による食料価格の上昇も影響し、二二年の一億九千二百万人から大幅に増加、過去最多となった。急性飢餓人口の発生要因の

22年・国連調査 紛争、食料価格上昇で最多に

うち最も大きかったのは紛争で、全体の45%に相当する一億一千七百万人が影響を受けた。次いで経済状況の悪化で八千三百九十万人が、自然災害で五千六百八十万人がそれぞれ食料危機に直面した。

国別ではコンゴ(旧ザイール)が最も多い二千六百四十万人で、次いでエチオピアが二千二百六十万人。アフガニスタン、ナイジェリア、イエメンと続き、これら上位五カ国で全体の約四割を占める。

ロシアが穀倉地帯のウクライナへ侵攻したことで世界的に上昇した食料価格は二二年末にかけて下落した。だが調査対象となった五十八カ国・地域中、二二年末時点でも10%以上の食料価格の上昇が見られたのは三十八カ国・地域に上っており、新型コロナウイルス感染症対応で切迫した財政と相まって、状況の悪化につながっている。